前橋汀子

ヴァイオリン・スペシャル・コンサート
ベートーヴェン没後200年記念

モーツァルト：
歌劇「フィガロの結婚」K.492 序曲

チャイコフスキー：
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35

ベートーヴェン：
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.61

［指揮］太田 弦
［管弦楽］日本センチュリー交響楽団

2027 1/11（月・祝） 14:00開演（13:00開場）

全席指定 S 7,700円 A 6,600円 B 5,500円（税込）

ザ・シンフォニーホール

45TH SINCE 1982 The Symphony Hall

主催：ザ・シンフォニーホール

ご予約・お問合せ

ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333（火曜定休）
https://www.symphonyhall.jp

プレイガイド

■e+（イープラス） https://eplus.jp/symphonyhall（パソコン・携帯）
■ローソンチケット https://l-tike.com/symphonyhall［Lコード:51429］
■チケットぴあ https://w.pia.jp/t/symphonyhall/［Pコード:328-616］

＊未就学児のご入場はご遠慮いただいております。
＊やむを得ない事情により出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。
＊公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
令和8年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

詳しい内容はこちら▶

前橋汀子 ヴァイオリン・スペシャル・コンサート
ベートーヴェン没後200年記念

人気、実力ともに日本を代表するヴァイオリン奏者の前橋汀子。彼女の演奏を聴くとき、あでやかに咲き誇る大輪の薔薇を連想せずにはいられない。もちろんとびきり鮮やかな深紅の薔薇である。長きにわたり第一線として活躍してきた前橋は圧倒的な華やかさと存在感を備え、多くのファンを魅了してきた。舞台に登場するやいなやその場の空気をさーっと変えてしまう音楽家。前橋汀子はまさにそんな稀有の存在である。2027年1月11日、幅広いレパートリーを深化させてきた前橋がザ・シンフォニーホールの45周年の年に、その至芸を披露する。チャイコフスキーとベートーヴェンの協奏曲を奏でる意欲的な公演は、わが国の演奏史に輝かしい足跡を刻むものになろう。

伊藤制子

©岡本隆史

前橋汀子［ヴァイオリン］Teiko Maehashi, Violin

日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、その優雅さと円熟味に溢れる演奏で、多くの聴衆を魅了してやまない。5歳から小野アンナにヴァイオリンを学び、その後、桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校で斎藤秀雄、ジャンヌ・イスナールに師事。17歳で旧ソ連国立レニングラード音楽院（現サンクトペテルブルク音楽院）日本人初の留学生に選ばれ、ミハイル・ヴァイマンのもとで学んだ。その後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院でロバート・マン、ドロシー・ディレイ、スイスでヨーゼフ・シゲティ、ナタン・ミルシテインの薫陶を受けた。これまでにベルリン・フィル、ロイヤル・フィル、フランス国立管などの名楽団、メータ、ロストロポーヴィチ、小澤征爾など世界の一線で活躍するアーティストとの共演を重ねている。近年、小品を中心とした親しみやすいプログラムによるリサイタルを全国各地で展開する一方、J.S.バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ＆パルティータ」や、ベートーヴェン、そしてブラームスの「ヴァイオリン・ソナタ」などにも意欲的に取り組んでいる。ピアニストのヴァハン・マルディロシアンと、ベートーヴェン「ヴァイオリン・ソナタ全集」、ブラームス「ヴァイオリン・ソナタ全集」のCDがリリースされた。また、室内楽にも積極的に活動しており、ベートーヴェンの弦楽四重奏や、近年では今井信子（ヴィオラ）、横坂源（チェロ）らとの弦楽トリオ等の公演も行っている。著書『私のヴァイオリン 前橋汀子回想録』が早川書房より、『ヴァイオリニストの第五楽章』が日本経済新聞出版より出版されている。これまでに日本芸術院賞、第37回エクソンモービル（現・ENEOS音楽賞）音楽賞洋楽部門本賞受賞。紫綬褒章、旭日小綬章を受章。使用楽器は1686年製ストラディヴァリウス。

©ai ueda

太田 弦［指揮］Gen Ohta, Conductor

1994年北海道札幌市に生まれる。幼少の頃より、チェロ、ピアノを学ぶ。
東京藝術大学音楽学部指揮科を首席で卒業。学内にて安宅賞、同声会賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞。同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程を修了。
2015年、第17回東京国際音楽コンクール＜指揮＞で2位ならびに聴衆賞を受賞。第30回渡邉暁雄音楽基金音楽賞受賞。2025年、第23回齋藤秀雄メモリアル基金賞を歴代最年少で受賞。
指揮を尾高忠明、高関健の両氏、作曲を二橋潤一氏に師事。これまでにNHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団などを指揮、今後さらなる活躍が期待される若手指揮者筆頭。
2022年3月末までの3年間大阪交響楽団正指揮者を務めた。2023年4月から仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者、2024年4月より九州交響楽団首席指揮者に就任。2026年4月より福岡国際音楽大学客員教授。

日本センチュリー交響楽団［管弦楽］ 街に響く。心に届く。 Japan Century Symphony Orchestra

©井上嘉和

1989年に発足、大阪府豊中市を拠点に活動するオーケストラ。
現在、久石譲が音楽監督、アルヴォ・ヴォルマーが首席客演指揮者を務め、名誉ミュージックアドバイザーに秋山和慶を擁す。ザ・シンフォニーホールでのシンフォニー定期演奏会のほか、とよなかシンフォニックシリーズ、特別演奏会などの主催公演、教育プログラムや地域連携事業、依頼公演、室内楽コンサート、アンサンブル等を合わせて年間200回を超える公演を行う。「伝統と革新～未来をつなぐ音楽を～」をスローガンに掲げ、音楽を通じて地域と未来を結ぶ架け橋として進化し続けることを目指す。
オフィシャル・ホームページ https://www.jcso.or.jp

ザ・シンフォニーホールの最新情報をチェック！ Instagram X Facebook note